

持続可能な地域社会の形成に向けた社会教育のあり方

～予測の困難な時代に生きていく中で～

(提言) 概要

地域社会を取り巻く背景

○社会環境の著しい変化

- ・技術革新の急速な進展、激しく変動する人口動態、多発する自然災害、グローバル化による価値観の多様化などにより、現在社会の変化は極めて複雑で予測不可能な状況に直面していると言える。
- ・予測が困難な時代だからこそ、従前にも増して人々はつながり、話し合いにより、よりよい解決策、答えを導き出していくことが求められている。そして、ともに考えることで、それぞれが当事者意識を持ち、自分の事として課題をとらえ、主体的にアプローチしていくことにより、それぞれの人生をより豊かにすることができる。
- ・少子化、高齢化、人口減少、核家族化、単身世帯化、近隣関係の希薄化、生活様式の多様化もあり、地域社会における人と人とのつながりの希薄化が進行している。
- ・地域社会を主体的に担っているという意識が抱きづらくなっている。

○社会教育を取り巻く環境の変化

- ・「社会に開かれた教育課程」や「地域学校協働活動」の法制化など、社会や地域住民との思いの共有、多様な主体との連携・協働により子どもたちの学びを進めていくことの方角性がより明確にされてきている。
- ・H30.12.21中央教育審議会「人口減少時代に新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」において、地域における社会教育の意義と果たすべき役割を「『社会教育』を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり」とし、新たな社会教育の方角性として、「開かれ、つながる社会教育の実現」を掲げている。

新型コロナウイルス感染症の発生とその影響

○新型コロナウイルス感染症による影響

- ・感染対策として、物理的に距離をとること等が必要となり、物理的に人とつながることが難しい状況にある。
- ・経済活動にも大きな影響が生じ、飲食業や観光関連業を中心に需要が大きく減少している。
- ・学校の臨時休業、公共施設の休館等が学習活動に影響を与えた。
- ・感染への不安もあって、誹謗中傷や差別的な扱いが見られている。
- ・感染者や医療従事者を差別や誹謗中傷から守るため、差別禁止を盛り込んだ条例を制定する動きも見られた。
- ・地域社会においても、極力接触を避けるようとする動きから、対面による会議等の開催が困難な状況となった。
- ・テレワークやオンラインの取組が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の面から急速に普及した。
- ・ICT技術の活用により、社会的距離を保ちながら遠隔地との距離を埋める取組が徐々に展開されてきている。
- ・家族や社会とのつながりの重要性を意識するようになり、全般的に生活満足度が低下した(R2.6.21内閣府調査)。

「つながり」に着目した地域社会・社会教育の現状と課題

○「つながり」に着目した地域社会の課題の整理

・地域社会におけるつながりの依存度の低下

価値観が多様化し、自身の生活のあり方の追求が進む中で、余暇時間の過ごし方や生活におけるつながりについても地域社会からより広い範囲で拡がり、多様なつながりに軸が移っていくことになったのではないかと捉えることができる。その結果として、地域社会における人と人との密接なつながりへの依存度が低下してきていると捉えることができる。

・生活の場である地域社会におけるつながりの大切さの実感

コロナ禍や近年の大規模災害の発生などを契機に、生活面、地域社会におけるつながりの大切さを改めて認識することとなった。生命・身体の安全・安心に関することや実生活における危機的状況への対応は、今ここにいる生身の人間同士のつながりで行うことが求められている。

・つながりを避ける傾向と多様なつながりの必要性

核家族化、世帯規模の縮小、働き方の変化や生活様式の多様化等に伴う地域生活における日常的なかかわりやふれあいの機会の減少等から、身近な地域社会におけるつながりを避ける傾向が見られ、結果として、地域における人と人とのつながりの希薄化が進んでいる。軸となるつながりをいくつも持つておいて、多様なつながりを保ちながら生活していくことが必要となるのではないかと捉えることができる。

つながりの中で学び合い、高め合うことで、自らの成長の可能性をより高め、より豊かな生活を送っていくことが可能となる。

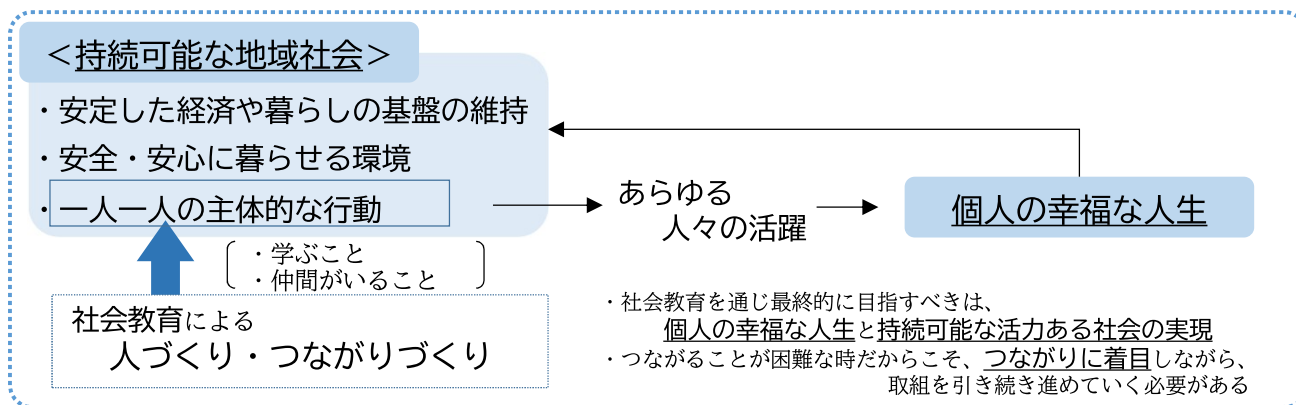
・つながり方の多様化と特性の理解

ICT技術の進歩により、つながり方が多様化することとなった。今後、状況に応じたつながり方の選択やつながり方の特性を理解したコミュニケーションのとり方の選択も求められる。加えて、デジタル・ディバイド(情報格差)解消に必要な環境整備とリテラシー教育を適切に進めていく必要がある。

持続可能な地域社会の形成に向けた社会教育のあり方

◆持続可能な地域社会の形成に向けて

- ・持続可能な地域社会であるためには、安定した経済や暮らしの基盤の維持、人々が安全・安心に暮らせる環境であることはもとより、そこに住むあらゆる人々が活躍し、一人一人がより豊かな人生を送るために主体的な行動ができることが重要となる。社会教育は、学びを通じて個人の成長を期するとともに、他者と学び合い認め合うことで、自己肯定感や幸福感、つながり意識が醸成され、相互のつながりを形成していくことが特徴であり、社会教育を通じ最終的に目指すべきは、個人の幸福な人生と持続可能な活力ある社会の実現である。
- ・人はつながりがないことで不安に苛まれ、つながりの中でともに学ぶことで、安心感や高揚感を実感することができる。つながることが困難な時だからこそ、地域社会におけるつながりづくりに着目しながら、あらゆる人々が主体的に参画し、活躍できるよう、社会教育による、より効果的な人づくり・つながりづくりに向けた取組を引き続き進めていく必要がある。



◆つながりづくり支援の方向性

①「ここでつながる」

- ・地域社会において、それぞれの興味関心に基づいてつながり、学び合いを通じて主体的な行動ができるよう、もう一步踏み出すための支援をする。
- ・地域社会が互いの個性や多様性を認めながら豊かな暮らしを実現できる場、真に自己実現ができる場となるように寛容性を醸成する。

②「どこかをつなげる」

- ・ICT技術の活用等による多様なつながり方によるつながりを支援する。
- ・地域を超えたつながりや地域がより開かれ広がっていくことを支援する。

③「大事なものでつながる」

- ・生活、防災、環境、交通、健康、子育て、学校教育、家庭教育、文化の伝承などの今ここにある大事なものでつながるための支援をする。
- ・大事であることを共感・共有し、主体的に関わり、行動ができるよう支援する。

◆つながりづくり支援のために

- ・つながりの大切さの認識の共有
- ・地域社会を牽引する担い手とその活動への正しい評価
- ・社会教育においても学びを止めない
- ・楽しさ、面白さ等の視点をもった学びや活動へのきっかけづくり
- ・「貢献したい」「つながりたい」思いに応えるしくみづくり
- ・ボランティアの養成、ボランティア登録制度の創設
- ・ICT環境の整備、ICT技術を活用した学びの実施
- ・「つながる場」の設定
- ・青少年期における地域とのかかわりの習慣化
- ・年代を問わず充実した暮らしができる環境づくり
- ・地域住民にとって大事なものを取り上げた学び（学習と対話）
- ・地域社会における取組のオープン化と外部からの参画
- ・包摂的な社会を実現する取組の推進